

MC：濱里様は残ってる言葉とか、言われた言葉で印象的なものってありますか？もしお聞きしてもよかったですね。

濱里：あの趣味としてするの？ 事業としてするの？と聞かれたことがあって(笑)

MC：ズバツとですね(笑)

濱里：いや、自分ではその開業届けも出して、事業としていたつもりだったんですよ、今考えるとですね。やっぱり私 1 人でしてイベントとか大きい仕事の際は、子供たちだったり家族が手伝ってくれるので、それでお金をいただいてというかですね、家族みんなお疲れさま～♪みたいな感じで焼肉食べに行っていたんですよ(笑)

MC：その焼肉なんですね(笑)

濱里：その焼肉なんですよ。焼肉食べに行ったら、利益として残らなくて、そんな感じでやっていたんですよ。それがもうみんな楽しい楽しい♪とお客さんも楽しい♪家族も楽しい♪私も楽しい♪って言ってやってきて、でもフタ開けたら何も残ってないみたいな感じだった。収支を見てもらい、”趣味ですと？事業としてしたいの？”って聞かれて、私今まで趣味でしていたんだって思って、”事業としてします！”と言ってからの切り替えがありました。本当にやっているつもりだったなっていうのは、やっぱり宮本さんに会って気づいたことなので、すごく方向転換にはなりました。

宮本：突然変わりましたよね。

濱里：そう、もう行くのをやめようかなって思わなかったことはないんです。やっぱり実際会って、”やっぱきつっていうか、今までじゃ駄目なの？駄目よね？と自分で分かっているんですけど、けどなんかそこを自分で乗り越えるっていうか、それがやっぱり一番きつかった”。自分で自分を認めて方向転換しないとイケないっていうその時、やっぱり宮本さんの一声っていうか、なんかそういう風に言われても、その後一緒に乗り越えてもらえるんだ、って寄り添ってもらえるっていうか、”一緒に最初スタート切れるんだ”っていう風に感じたので、”これは乗り越えないと”って思ってすぐ行きました、間を空けずに。

宮本：本当に。次の予約をされて帰られましたね。”宿題はあるのに、次決めてその間にやってこれる？”みたいな感じで決めていかれましたね。

MC：行動が早いんですね。

濱里：何か決めないと、逃げるっていうのも分かる自分なので。約束したらもう破れないから、”先に約束して帰ります”って言って、予約を入れて帰りました。

MC：パワーアップしたと、宮本センター長がおっしゃっていたんですが、どんな風にパワーアップされたと感じますか？

宮本：事業をされるという、スイッチが入りました。スイッチが入って明らかに変わりました。それまでと取組みや姿勢が変わり、ある意味別人と言っていいぐらい覚醒されました。趣味とか楽しいとかそういうことが悪いわけではなく、”その方がどこを目指したいのかな”というところにご一緒するのが一番なんです。”私は事業としてやりたいです”というところから本当にいろいろとご一緒でき、宿題も出すのもきっちりやってきてくださいました。

補助金申請も、専門家のご支援を入れることなく、最後まで濱里さんがこれからやる事業のことも含めて、計画を立て書ききったってところがすごいです。初めて取り組んで、今後の事業計画、数値計画を初めて書きあげるのは難しいことなんです。初めは全てがわからなくて、どう書いていいのかわからない。そこを投げずに、期限をご本人が決められてやり切るところがすごいです。濱里さんが持ってらっしゃるポテンシャルみたいなものを見せていただいたって感じです。

MC：元々あったポテンシャルをさらに宮本センター長に出会うことで光り輝いてきたんですね。

濱里：元々持っていたのかな、行動力はあるってよく言われるんですけど、どうなんでしょう。とにかく何か言われるがままに、最初書いて行ったとき全く分からなくて、多分何ていうかなあ最初の文は自分で見ても最後出来上がったのを見たら、小学生の作文だなんていうような、最初それを持っていたんですね。これで補助金とかの申請通るはずなかったよねっていう、なんかそれがこういう風にああいう風にアドバイスしていただいて、最後出来上がった時はもう自分が作ったものじゃないみたいな感じになって、満足です。もう補助金と審査通っても通らなくても満足です。あの短期間でやりきったことがなんか自信になりました。

宮本：すごい短期間で、これから先のビジョンも含めてと数値計画を含む事業計画を全部自分で作り上げられたってところがすごいです。言われたからといって、なかなか直ぐにできないと思います。

濱里：そうですね。